

佐藤年金数理短期専門家による年金数理研修の修了式集合写真 於：モンゴル日本センター



★SINRAI PROJECT★KATSUDO NO NAIYOU WO ★NEWSLETTER DE★MAITSUKI HOUKOKU★SHITEIMASU★

# SINRAI PROJECT

## JICA 社会保険実施 能力強化プロジェクト

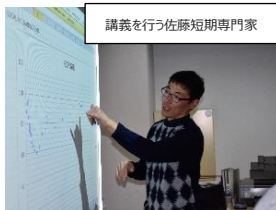
ニュースター第 15 号  
2017 年 9 月



主な内容（次項）

### 佐藤短期専門家による年金数理 研修が実施されました。

9月4日～9月15日、日本の国立社会保障・人口問題研究所から佐藤年金数理短期専門家をお迎えし、



講義を行う佐藤短期専門家

モンゴル労働・社会保障省、社会保険国民協議会、医療・社会保険庁、国立労働社会保障人口問題研究所、国家統計局の職員を対象に、モンゴル日本センターにて、年金数理研修を実施しました。

年金数理研修は、モンゴルの公務員に、年金制度を科学的な

方法かつ長期的な観点から立案する能力を身に付けてもらうべく行っています。モンゴルの既存のデータを使って年金財政の将来の収支見通しや、年金制度を改正する場合の財政シミュレーションを自ら作成できるようになることを学ぶほか、関連組織同士の研修参加者同士で知見を共有しながら業務をすすめる重要性についても理解することが今回の主な研修目的です。

まずは、経済の動向について経済統計を使って分析し、そこから見た将来の賃金上

佐藤短期専門家の指導を受ける研修参加者



昇率の変化を推計する方法を学びました。研修参加者は、短期専門家から出される課題に対し

して、参加者同士協力しながら毎日真剣に取り組み、研修中にそれぞれ発表を行ったほか、短期専門家からの適切なコメントをもらいました。

また、人口や経済のデータを用いて、保険料率や加入率の変化により、将来の年金財政がどのようなようになるのか、そのためにはどのような政策が必要かについても、短期専門家と一緒に考えました。研修参加者はたくさんの



課題に取り組み様子

知識を得た他、更に高度な技術を習得したいという思いも生まれています。

修了証授与式の様子



これからもモンゴルにおける年金数理の技術を高めるべく、リーダーシップを発揮していかれることを期待しています。



### 連載「草原の国の社会保障」

今回は、「ライフスタイルにあわせた年金受給」についての記事です。（写真：ウィークリーミーティングを視察にきたウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクトの専門家、インターンの皆様）



### 駒沢女子大学の学生への プロジェクト紹介

モンゴルにおける日本のODA事業について学ぶためモンゴルを訪問している駒沢女子大学の方々にプロジェクトを紹介しました。（写真：モンゴル訪問中に学んだことを話す学生さん）

## 草原の国の社会保障（第 15 話） 「ライフスタイルに合わせた 年金受給」

皆さま、こんにちは。

たくさんの方々から、「日本では65歳から年金を受給することになるが、60歳から年金を受給したいという者はいないのか」との質問をいただきました。そこで今回は、高齢者のライフスタイルに応じて、本人の希望する年齢で年金が受給できる仕組みについてお伝えします。

日本の年金制度は、65歳から年金を受給することが原則です。とはいえ、人によっては「もっと早く年金を受給したい」「まだまだ働いているので、年金の受給は、もう少し遅くしても構わない」といったように、それぞれのライフスタイルに応じた多様な考えがあります。

このため、日本の年金では、本人の希望により、年金の受給開始年齢を60歳から70歳まで自由に選択することができるようになっていきます。一方で、本来65歳から受給することが原則である中、早めに受給する場合、同じ額を受給することは公平ではありません。そこで、受給する年齢を65歳から早めに受給する場合は、受給額が減額されます。また、受給する年齢を65歳から遅く受給する場合は、受給額が増額されるようになっていきます。

そして、大事なことは、この減額措置又は増額措置は、年金を受給している間中、つまり、一生涯継続されるのです。60歳から64歳まで減額された年金額が、65歳に元に戻るということではありません。60歳から早めに受給した方は、その後ずっと減額された年金額を受給することになるのです。逆に、70歳まで年金の受給を遅らせた場合は、70歳から年金を受給する際は、一生涯増額された年金額を受給し続けます。

増額される場合は良いのですが、減額される場合は、その金額で生活できるのかどうか、自分の貯蓄や就労収入と見比べると、考える必要がありますね。もちろん、健康に不安で70歳からでは間に合わないと思う方もいらっしゃるでしょう。

年金を受給する一人ひとりの様々なライフスタイルにあった柔軟な仕組みを用意することが大切です。

チーフアドバイザー 山下 護

### 駒沢女子大学の学生との意見交換、プロジェクト紹介

モンゴルにおける日本の国際協力について学ぶため、モンゴルを訪問している駒沢女子大学の杉野先生、学生の皆さまと意見交換およびプロジェクトの紹介を行いました。（写真下：意見交換会に参加した駒沢女子大学杉野先生、学生の皆様、JICA プロジェクト専門家）



SINRAI プロジェクトからは山下チーフアドバイザーから、日本での高齢化率が急激に上がり、それに対応してきた経験をモンゴルに伝えていくことを中心にお話したほか、障害者の社会参加促進プロジェクトおよび建設分野における労働安全プロジェクトからも専門家が参加し、日本がモンゴルに協力する分野は多岐にわたっていることをお伝えしました。将来の国際協力を担う学生の方々と交流する機会を作ってください関係者の皆さまに感謝を申し上げます。

### ILO、労働・社会保障省、医療・社会保障庁主催セミナーに参加



9月14日、ILO、モンゴル労働・社会保障省、医療・社会保障庁が主催する「社会保険改革及び現状、将来の傾向」という国際フォーラムが開催されました。山下チーフアドバイザーは「日本の雇用保険の紹介」、高梨専門家は「社会保険の加入が与えた経済成長への影響」というテーマでそれぞれ発表を行いました。（写真↑：発表を行っている山下チーフと高梨専門家）



### バヤンゴル区医療・社会保障事務所のエルデネビレグ職員が日本留学

日本政府無償資金協力として、2001年からモンゴルで実施されている奨学金事業「人材育成奨学計画（JDS\*）」に、SINRAI プロジェクトとも一緒に活動してきたバヤンゴル区医療・社会保障事務所のエルデネビレグ職員が選ばれ、このたび日本へ2年間留学することとなりました。



今までの勤務経験を活かし、日本で社会保障制度等を学ぶことを通して、モンゴルの更なる社会保障分野の発展に貢献されることを期待しています。成功をお祈りしています、頑張ってください。

\*JDS=The Project for Human Resource Development Scholarship の略称

「人材育成奨学計画（JDS\*）」について、関心のある方は、以下のホームページ、JDS プロジェクト事務所までお問い合わせください。

<http://jds-scholarship.org/>

JICE-JDS 事務所連絡先（モンゴル日本センター2階201号室）

Tel: 976-11-327052

E-mail: [jds.mongolia@jice.org](mailto:jds.mongolia@jice.org)

## SINRAI プロジェクト・オフィス住所・連絡先

住所：Khuulichid Street, Chingeltei District, Ulaanbaatar 15160, モンゴル医療・社会保障庁内 6階602号室

電話(FAX)番号：(+976)-11-325125

公式 Facebook アカウント：Жайка Нийгмийн Даатгалын төсөл

ニュースレターのバックナンバーはこちらから <http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/newsletter/index.html>

